



第3回エネルギーセミナー わかりやすく学ぶエネルギースクール

◎本紙面は2022年2月14日(月)に開催された、
オンラインセミナーの講演・対談から抜粋・再構成しています。

エネルギー産業2030への戦略について学ぶ

福井県環境・エネルギー懇話会では、エネルギーや原子力をめぐる現状と課題を整理し、体系的に学ぶ
3回シリーズのセミナーと2回の特別講座を開催しています。最終回の第3回セミナーでは、「エネルギー産業2030への戦略」について学びました。

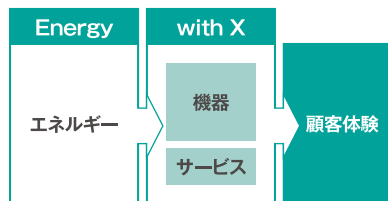
オンラインセミナー

今般の新型コロナウイルス感染症
拡大状況を踏まえ、オンラインでの
開催といたしました。



PR

エネルギーと 顧客体験をつなぐ「X」



エネルギーの利用機器とサービスを組み合わせ、新たな顧客体験を提供して、はじめて新しいお金の流れが生まれてくる。

新たな顧客体験の創出を
エネルギーの新事業創出には、ミッシングピース(足りないピース)を埋める必要があります。そのピースが、エネルギーと顧客体験をつなぐ「X」です。ガソリンを例に挙げると、私たちはガソリンを直接消費するわけではありせん。自動車という「X」により、運転による通勤や旅行といった顧客体験にお金を出してもいいと考えられるわけです。

エネルギースクール ゲスト講師



いとう たけし
伊藤 剛氏
U3イノベーションズ合同会社
創業者・共同代表

講演 2

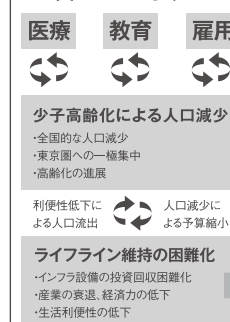
エネルギー産業2030への戦略 Utility3.0を実装する

**地域社会での
新産業創出のために**
エネルギーが寄与する社会課題の解決策である「分散型ライフライン」をご紹介します。その一例が、電気を使うこと自体で新しい顧客体験を生み出す「グランピング」です。ニッチな市場ではありますが、キャンプ場で

や壁、システムキッチンなどに埋め込みます。その上に調理家電を置くと調理ができ、照明器具を置くと明かりがつき、モバイル端末を置くと充電ができます。こういったコードレスな家をつくることで、新しい顧客体験につながるのではないかと考えます。
ワイヤレスがもたらす新たな顧客体験は、家の中にとどまらず、商業施設や街なかにも広がります。モバイル端末はもちろん、電動アシスト自転車や電動キックボードなどの新たなモビリティの充電に活用されるでしょう。

エネルギーの領域で新たな顧客体験を創出する、これからの事例が「ワイヤレス給電」です。ケーブル、コンセント、コードを使わずに充電するため、充電ポイントやテーブルやデスク、床をテーパーやデスク、床

地域社会衰退 負のスパイラル



持続可能な 分散型の循環社会



もシャワーを浴び、きれいなテントで寝たいという新しいアウトドアスタイルとして注目を浴びています。グランピングでは、家で使う電気代とはまったく違う価格感覚で、電気代を負担してもらうことが可能でしょう。
小規模都市圏や地方郊外圏は、エネルギーインフラの危機に直面しています。従来の人口集積を前提にしたインフラは限界が来ています。移住や集住(コンパクトシティ)だけでなく、グランピングなど新しいライフスタイルやレジャーなどの創出が、課題解決につながるのではないかと考えます。
地方郊外圏は全国で、再エネ発電量の7割近くを占めています。こうしたエネルギー資産をどう組み合わせしていくかが、新産業創出や地方の脱炭素化のポイントになるでしょう。

日本の社会課題と エネルギー産業

今回は、本日の講師である伊藤さんと私が昨年まとめた『エネルギー産業2030への戦略Utility3.0を実装する』という書籍からお話をさせていただきます。
書籍では、エネルギー産業が寄与すべき、日本が直面する社会課題を3点に整理しています。1点目が「気候変動」です。脱炭素化に向けたセオリーは、電源の脱炭素化と需要の電化ですが、それに向けてエネルギー産業には――▽現在依存している化石燃料を徐々に減らし、CO₂を排出しない再エネや原子力発電などで電気をつくる▽エネルギーの地消を進めて、できるだけ地域内でエネルギー需給をバランスさせる――といった役割が求められています。

さらに、「人口減少と過疎化」という社会課題に対しては、太陽光発電など

エネルギースクール メイン講師



たけうち すみこ
竹内 純子氏
NPO法人
国際環境経済研究所
理事・主席研究員

講演 1

エネルギー産業2030への戦略 Utility3.0を実装する、現状の課題と戦略

の電源分散化に加え、水の循環や食糧生産、廃棄物処理など、地域の暮らしを支える社会インフラをパッケージ化し、人口集積を前提としないインフラ提供を模索する必要があります。

3点目は、「国土強靱化」です。災害激甚化に向けて、エネルギー源の多様化により国や地域のエネルギー安全保障を向上させるとともに、エネルギー供給に余裕を持たせるため、技術やビジネスモデルを生かしていかねばなりません。



脱炭素を推進するための 原動力

大幅な脱炭素化を推進する原動力は――▽世界で複数の国が表明している、2030年以降のガソリン車、ディーゼル車の販売禁止などの「規制の力」▽ESG(環境、社会、ガバナンス)

“脱炭素”を推進する原動力

- | | |
|-----------|---|
| 規制の力 | ● 規制による“脱炭素”は、強い実行力を伴うが、やりすぎると劇業になってしまう。 |
| 資本市場の力 | ● 資本の力は、企業セクターを動かす大きな原動力となっている。 |
| 製品・サービスの力 | ● 生産物市場でイノベーションを起こし、生産物市場において脱炭素に寄与する製品・サービスを流通することで“脱炭素”を実現する。 |

投資など、企業を動かす「資本市場の力」▽脱炭素に寄与する製品・サービスを流通させる「製品・サービスの力」という3つがあります。著者である私たちは、「製品・サービスの力」が最も重要で、後の2つはその力を引き出すためのイネーブラーだと考えています。
大幅な脱炭素化を実現するためには、エネルギーを供給する側だけでなく、ガソリン車を電気自動車に替えるなど「需要の電化」が必要です。エネルギー産業が大きな変革期にあることは間違いありませんが、エネルギーはあくまで手段でありCO₂は行動の結果でしかありません。企業や生活者の行動変容を促すために何が必要かを、伊藤さんのお話で考えてみたいと思います。

過去のセミナーの内容はホームページにてご覧いただけます。 <https://www.fukui-kan-ene.net>



主催 **福井県環境・エネルギー懇話会**
TEL.0776-33-7050 〒918-8004 福井市西木田2-8-1 福井商工会議所ビル6F

共催 **福井県経済団体連合会**
福井商工会議所